

◎数理科

主任 竹田 正

1. 平成17年度運営目標

学生の目線に立ち、愉快で自由闊達な職場風土形成を目指す。また、新居浜高専の研究教育の向上に寄与するとともに、学生、教職員、地域とともに歩むと信頼されるに足る学校作りに貢献する

2. 平成17年度実施計画

2.1 入学志願者確保

市民講座、公開講座などを通して、市民、中学生に広い意味で本校を認識してもらい志願者の増加を図る。

市民講座は大盛況との評をいただいた。また、公開講座は来た生徒さんに十分満足してもらったが、数理科として学生を募集していないので一般的な広い意味でのPRを超えられなかった。

2.2 学習生活支援

1年生に対しては主として低学年教育委員会の混合学級運営を中心として、2年生以上では、各学科と協力して主として教科指導を中心として、全学生に対して、寮務、部活指導、その他日常指導を通して、学習指導、生活指導、進路指導を積極的に行う。そして学生として自立的かつ自律的に振る舞えるよう教育する。

特に、2年以下の学生については挨拶の励行、身だしなみ指導、禁煙教育、交通モラルを指導し、ショートホームルームはその内容について低学年教育委員会と協力して作成、指導する。朝の登校指導、盗難自衛指導を行う。

また、基礎学力不足の学生への教育指導を補習その他の手立てによって強化する。

低学年教育委員会と共同して学級運営を行い、上記のすべての課題に取り組んだ。

2.3 教育改善

数学、物理、化学（含む、応用数学、応用物理）科目教授

工学基礎科目であり、かつ重要な教養科目である数学、物理、化学を専門科目への円滑な接続が図れるレベルで、かつ、技術者として付与すべき素養レベルまで、教授する。

そのため各専門工学の中身に立ち入り、教えるべき内容を吟味する。

まず、数学について、今年、2年生で習熟度別授業に踏み切り、数理科全体で尽力する。また、実施にともなう困難が予想されるため、特に、全校的なバックアップを望みたい。これが最重点課題である。数学の補習を行う予定である。

さらにまた、中学校・高等学校との教育交流を今年も行う。

物理では新規メンバーを迎え、授業内容の変更をともなう改善を目指す。物理・化学では予算、人員の許す限りの実験・演示授業を実施し、理解を促したい。

上記の目標に応じて尽力したが、特筆すべきは数学教員が恒常的に課外特別授業を行ったことである。

2.4 JABEE

応用数学や応用物理の授業を通して全学科に共通な基本的な素養を涵養し、

工学者としての解析能力を培い、JABEEの理念を体得させる。

特筆すべき成果が得られなかった。

2.5 研究

教員個々の研究課題に加えて、数理科としても地域ニーズに対応した研究の可能性を追求する。また、地域との連携の一層の推進も行う。また、教育研究についても積極的に行う。

特筆すべき成果を得られなかった。

2.6 地域連帯

市民講座、公開講座その他地域に連帯して行える事業を推進する。

市民講座は大変好評であった。

2.7 90分授業

今年度から導入したシステムなので試行錯誤は免れないが、部活と競合しない範囲で、放課後の有効な活用によって、大学編入を目論む学生や学力不足学生などへの実のある個別指導に努める。

放課後の有効利用により、大学編入を目論む学生（おもに留学生）、学力不足学生（おもに低学年）の双方に個別指導の時間を確保できた成果も得られた。

総括的評価と課題

設定目標はおおむね妥当であり、教育では生活指導。オフィスアワー、課外特別授業などに取り組んだ。また、研究、学校運営参加とも、何とか達成できたと総括する。